Kodak

i4x50 シリーズスキャナー

ISIS アプリケーション用
スキャンセットアップガイド

A-61838_ja

SIS ドライバの使用

目次

[Scan Validation Tool] の起動 2
[Scan Validation Tool] ダイアログボックス 3
イメージ設定の実行 5
- [メイン] タブ 7
- [レイアウト] タブ 9
- [スキャン領域] ダイアログボックス 10
- [イメージ処理] タブ 12
- [カラーの自動検知] タブ 15
- [ドロップアウト] タブ 17
- [調整] タブ 18
- [背景] タブ 20
- イメージの端を埋めるタブ 22
- [ブランクイメージ検出] タブ 23
- [バーコード読取り] タブ 24
- [バージョン情報] タブ 26

スキャナー設定の実行 27
- [スキャナー] タブ 28
- 重送検知タブ 31
- [パッチ] タブ 34
- [インプリンタ] タブ 35
- インプリンタフォーマット表 39
- [ログ] タブ 40
- [デバッグ] タブ 42

Kodak i4250/i4650/i4850 スキャナーのイメージ処理機能によって高画質のスキャン画像を取得できます。

*イメージ処理*とはそれぞれのイメージに対して、給紙の傾き調整や枠消し、イメージのノイズ除去など、スキャン画像の質を向上させる調整を自動的に行う機能のことです。

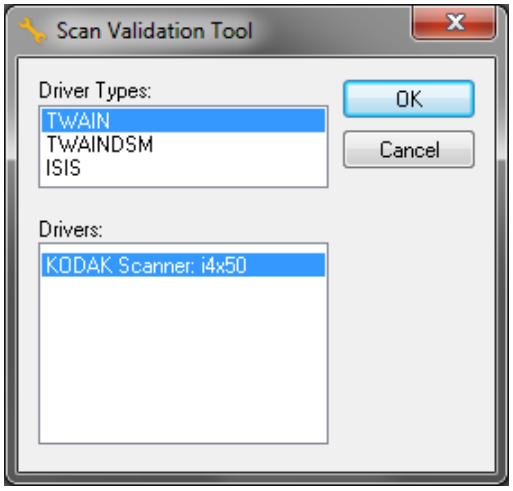
ISIS ドライバは、スキャナーと通信を行うソフトウェアです。このドライバは、EMC Captiva が作成、保持し、Kodak Alaris Inc が提供します。また、ISIS ドライバに対応する多くのスキャンアプリケーションとのインタフェースに使用できます。

本ガイドでは、ISIS ドライバウィンドウのタブの機能について説明します。各機能は、使用されるスキャンアプリケーションのユーザインタフェースでも選択できます。

[Scan Validation Tool] の起動

注：Scan Validation Tool はコダックアラリスの診断ツールです。コダックアラリスは Scan Validation Tool をスキャンアプリケーションとして使用することをお勧めしません。

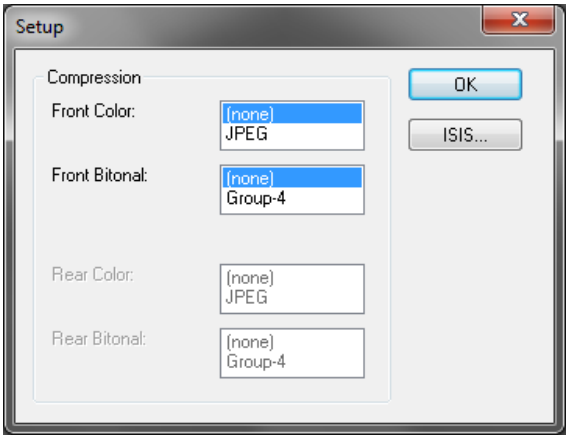
1. **[スタート]>[プログラム]>[Kodak]>[原稿のイメージング]>[Scan Validation Tool]** を選択します。



2. [ドライバの種類] から **[ISIS]** を選択し、[ドライバ] から **[KODAK スキャナー i4250/i4650/i4850]** を選択してから、**[OK]** をクリックします。Scan Validation Tool のメインウィンドウが表示されます。

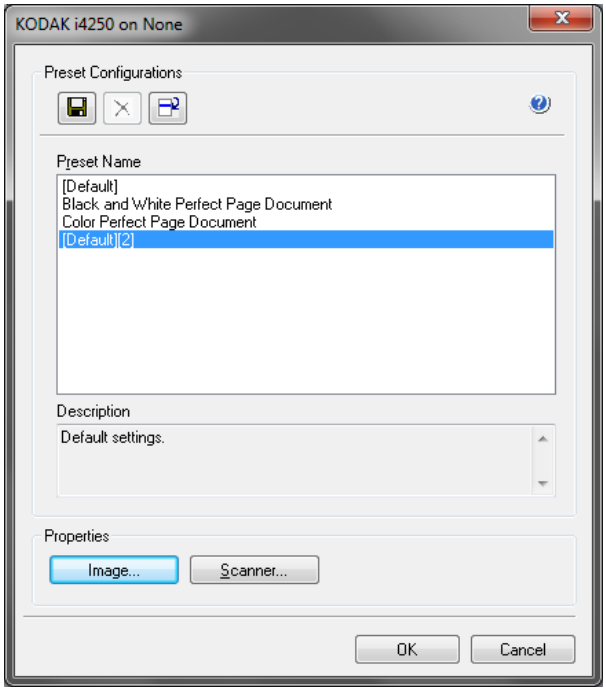


3. **[セットアップ]**  アイコンをクリックします。[セットアップ] ダイアログボックスが表示されます。



4. **ISIS** をクリックします。[プリセット設定] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには保存されたドライバ設定のリストがあります。

   [プリセット設定] アイコンのいずれかをクリックして、プリセットを*保存*、*削除*、または*インポート*できます。また、*[プリセット名]* リストボックスに表示されている定義済みのプリセットを選択/変更できます。



5. **[イメージ]** をクリックすると、イメージ関連の設定ができます。

[Scan Validation Tool] ダイアログボックス

Scan Validation Tool（SVT）でスキャナーのすべての機能にアクセスできるため、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Tool で ISIS ドライバを使用してスキャナーの機能を検証できます。



注：*Kodak* i4x50 スキャナーに対応するフル機能アプリケーションは多数あります。スキャナーに同梱の *Kodak* キャプチャ プロ ソフトウェア リミテッドエディションのスキャンアプリケーションは、基本的なスキャンに最適です。*スキャンニーズの増加に伴い*、*Kodak* キャプチャ プロ ソフトウェア リミテッドエディションを *Kodak* キャプチャ プロ ソフトウェアの完全バージョンにアップグレードできます。

[ツールバー] ボタン



セットアップ — 選択されたドライバ用のユーザインタフェースを表示します。



スキャン開始 — 入力トレイにある原稿をスキャンします。



1 ページスキャン — 1 ページだけスキャンします。



停止 — スキャンを終了します。



変更 — TWAIN データソースと ISIS ドライバを切り替えます。



保存先 — スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは ISIS ドライバでは利用できません。



削除 — 保存先ファイルを削除します。



ライセンスキー — [ライセンスキー] ウィンドウを表示します。



表示モード (画像なし) — イメージビューアウィンドウを閉じます（イメージは表示されません）。



表示モード (1 画像) — 1 回に 1 枚のイメージを表示します。



表示モード (2 画像) — 1 回に 2 枚のイメージを表示します。



表示モード (4 画像) — 1 回に 4 枚のイメージを表示します。



表示モード (8 画像) — 1 回に 8 枚のイメージを表示します。



TWAIN 設定 — [TWAIN 設定] 画面を表示します。



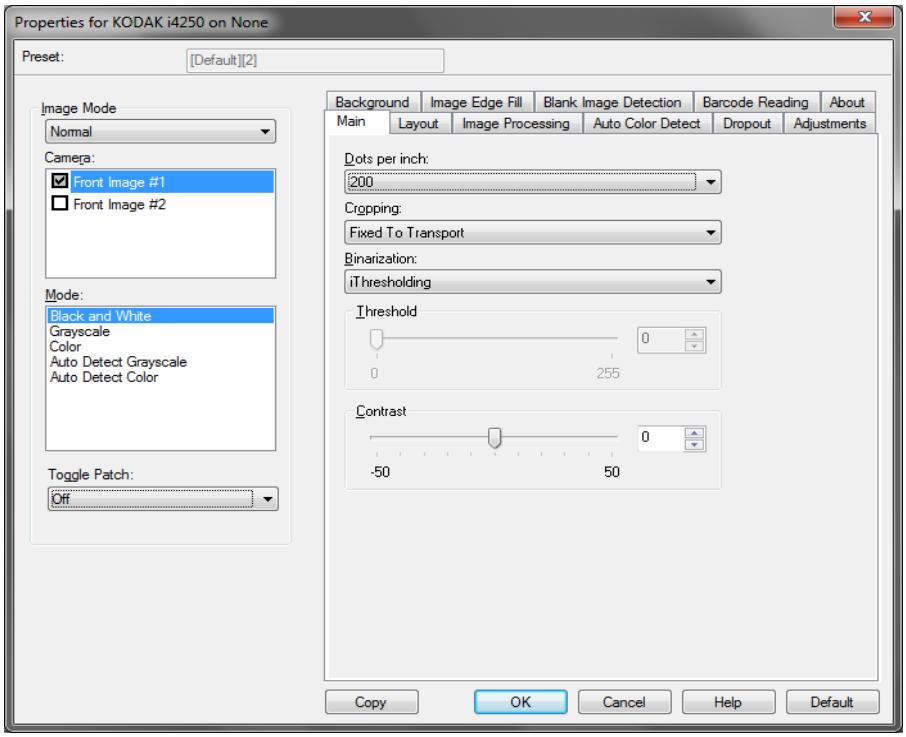
バージョン情報 — スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。

以降の章ではイメージ設定の詳細や手順について説明します。スキャナー設定の手順については、後述の「スキャナー設定の実行」を参照ください。

イメージ設定の実行

ISIS ドライバのメインウィンドウにはイメージ設定に使用するタブがあります。スキャンの目的やニーズに合わせて、これらのタブを使ってオプションを設定できます。

注：すべてのイメージタブ（メイン、レイアウト、イメージ処理など）で、**[イメージモード]**、**[カメラ]**、**[モード]**、および **[トグルパッチ]** が選択可能です。



イメージモード — 次のいずれかのオプションを選択します。

- **[標準]** — 通常は 1 枚の原稿につき、表面に 1 つのイメージが作成され、裏面に別のイメージが作成されます。表面と裏面のそれぞれに一つずつ別のイメージを作成する場合に選択します。
- **[結合]** — このオプションをオンにすると、1 つのイメージに原稿の表面と裏面の両方を表示します。*イメージ結合* には次のオプションがあります。**[表面を上]**、**[表面を下]**、**[表面を左]**、**[表面を右]**。

[カメラ] — *[カメラ]* リストに読取り面（表面および裏面）が表示され、それぞれの面でイメージ処理値を定義できます。オプションには、**[表面イメージ 1]**、**[表面イメージ 2]**、**[裏面イメージ 1]**、**[裏面イメージ 2] があります**。

Kodak スキャナーのドライバでは、カメラ設定を個別に設定できます。白黒イメージに適用される設定や、カラー / グレースケールイメージに適用される設定があります。

[モード] — 次のオプションからいずれかを選択します。

- **[白黒]** : 白黒の 2 階調で構成したイメージを作成する場合に選択します。
- **[グレースケール]** : グレースケールでイメージを作成する場合に選択します。
- **[カラー]** : カラーでイメージを作成する場合に選択します。
- グレースケールの自動検知 : カラー自動検知のグレースケールスキャンを設定します。詳細は、「[カラーの自動検知] タブ」を参照してください。
- **カラーの自動検知** : カラー自動検知のカラースキャンを設定します。詳細は、「[カラーの自動検知] タブ」を参照してください。

[トグルパッチ] — トグルパッチを印刷した原稿から、スキャナーでその原稿がカラー／グレースケールまたは白黒のいずれかを判断します。

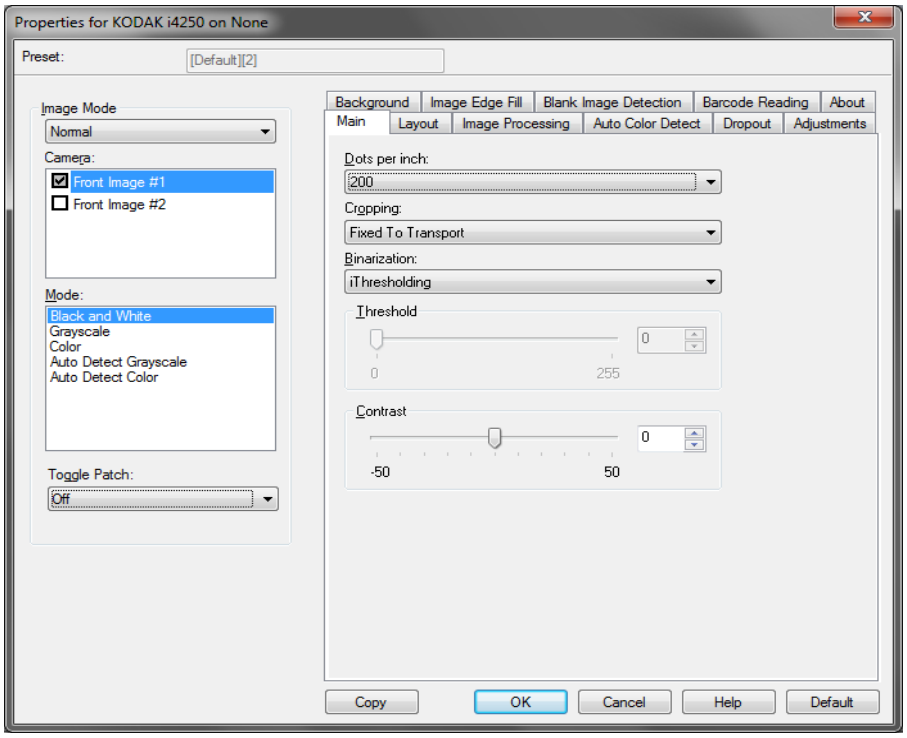
- **[オフ]** : パッチは使用されません。
- **[片面]** : パッチシートを認識する片面のみ切り替わります。
- **両面** : パッチは表面または裏面のいずれかで認識され、両面に切り替わります。

[ボタン] — ウィンドウ下部にあるボタンは、すべてのタブに対して適用されます。

- **[コピー]** — 両面原稿をスキャンする場合にのみ使用できます。片面のカラー、グレースケール、白黒イメージの設定を定義してから、[コピー] ボタンをクリックすると、その設定内容を裏面にコピーすることができます。たとえば、**[表面イメージ 1]** を設定してから、[コピー] ボタンをクリックすると、その設定内容を **[裏面イメージ 1]** にコピーできます。
- **[OK]** — すべてのタブ上で設定された内容を保存します。
- **[キャンセル]** — 変更内容を保存せずにウィンドウを閉じます。
- **[ヘルプ]** — 選択されたウィンドウに示されたオプションについてオンラインヘルプを表示します。
- **[デフォルト]** — タブの値をデフォルト設定にリセットします。

[メイン] タブ

[メイン] タブには、以下のオプションがあります。



1インチあたりのドット数(dpi)または解像度 — スキャンする際の解像度を指定します。この設定はスキャンしたイメージの品質に大きく影響します。解像度を高くすると、画質が良くなります。ただし、高い解像度でスキャンすると、スキャンに要する時間が長くなり、ファイルサイズが大きくなります。

解像度の値はドロップダウンリストから選択します。デフォルトは200 dpiです。解像度は 100、150、200、240、250、300、400、500、600 dpiに設定できます。

[クロッピング] — スキャン原稿の一部を切り取ります。クロッピングオプションは、カラー / グレースケール、白黒イメージですべて使用できます。表面と裏面のクロッピングを個別に設定できますが、同時スキャンの場合は、カラー / グレースケールクロッピングと白黒クロッピングを読取り面ごとに同じ値に設定する必要があります。クロッピングオプションは、1 イメージに対して 1 つだけ適用可能です。

- **[自動]** : 原稿サイズ毎にクロッピングウィンドウを原稿の縁に合わせて直接調整します。
- **[アグレッシブ]** : イメージの端にある黒い外枠を除去します。これを選択すると、原稿の端のイメージデータが一部失われる可能性があります。
- **[ガイド幅に合わせる]** :（同じサイズの原稿をまとめてスキャンする場合）イメージとして出力する領域を定義できます。[ガイド幅に合わせる] クロッピングは、用紙サイズとページレイアウトを合わせて、原稿を中央に揃えてスキャンする場合に使用します。中央に揃えない場合は、[レイアウト] タブを選択してスキャン領域を設定する必要があります。詳細については、本ガイドに後述の「[レイアウト] タブ」を参照ください。

- **ドキュメントに合わせる**：（ゾーンプロセッシング）：（同一サイズの複数ページの原稿に使用）— ゾーンプロセッシングは、原稿の左上コーナーに対応してレイアウトできる浮動固定クロップウィンドウ（ゾーン）です。そのエリアをカラー / グレースケールで処理するか白黒で処理するか選択することができます（白黒とカラー / グレースケールを別のウィンドウに定義することもできます）。パラメータは、イメージの表面と裏面でそれぞれ選択できます。

  このオプションは、ある部分をカラー / グレースケールまたは白黒で別々に保存したい場合、自動クロッピングと使用します。写真、署名、エンボス（浮き出し）、印章など、対象となる部分が一定の場所に配置されている場合に大変効果的です（対象の小さい部分をカラー / グレースケールでスキャンし、残りの部分を白黒でスキャンする場合など）。ゾーンを定義するには、[レイアウト] タブを選択します。

[バイナリゼイション] — オプションは、グレースケールイメージに適用して白黒イメージを出力します。背景色や濃度が異なっていたり、前景情報の色や濃度が異なっていても、背景情報から前景情報を区別できる特長があります。同じ画像処理パラメータを使用してさまざまなタイプの原稿をスキャンでき、優れたスキャンイメージを得ることができます。

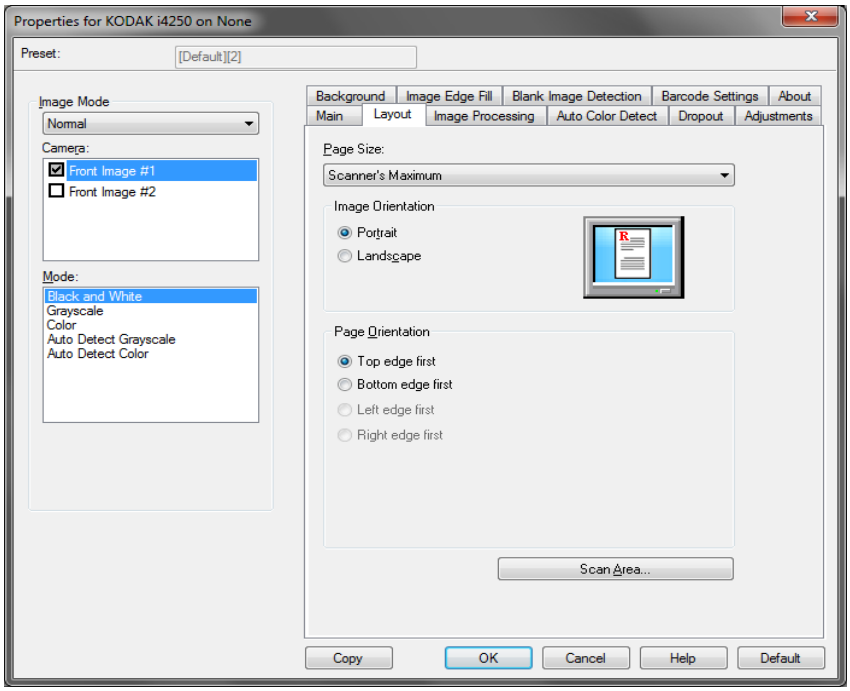
- **iThresholding** : 高品質のイメージを生成するために、原稿を自動的に識別して、最適なしきい値（スレッショルド）が決定されます。単一の設定で画質が異なる原稿 (文字のかすれ、濃淡のある背景、カラーの背景など) をスキャンできるので原稿を仕分けする手間を省けます。iThresholding を使用する場合は、[コントラスト] のみ調整可能です。
- **固定処理 (FP)** : 白黒の原稿やその他のコントラストの高い原稿に使用します。[固定処理 (FP)] を選択した場合は、[スレッショルド] のみ調整可能です。
- **アダプティブスレッショルド (ATP)** : イメージの前景情報（文字、グラフィック、線など）を背景情報（白または白以外の用紙の背景）と区別します。アダプティブスレッショルドを使用する場合は、[スレッショルド] と [コントラスト] を調節できます。類似する書類タイプをスキャンする場合にこのオプションを使用します。

スレッショルド （明るさ）— このオプションは 固定処理 または Adaptive Thresholding (ATP) を選択すると使用できます。このオプションを使用すると白黒イメージの色を暗くしたり、明るくしたりできます。しきい置が高いほどイメージの色が暗くなります。スライダを使って、0 ～ 255 の範囲の値を設定してください。デフォルトは 90 です。

[コントラスト] — 出力イメージの細部のディテールの強調レベルを調整できます。コントラスト値が高いほど、細部のディテールが強調されます。コントラスト値が低いほど、出力イメージはより鮮明（少ないディテール）になります。コントラスト値を高く設定しすぎると、出力イメージに不要な線や、色が濃くなりすぎたりする場合があります。コントラスト値を低く設定しすぎると、出力イメージに必要な線や文字などが表示されない場合があります。コントラスト値の範囲は -50 ～ 50 です。デフォルト値は 0 です。

[レイアウト] タブ

[レイアウト] タブには、以下のオプションがあります。



[ページサイズ] – スキャナーが最初に選択されたときのデフォルトの用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストから各用紙サイズを選択できます。**[自動]** または **[アグレッシブ]** クロッピング オプションを使用する際は、用紙サイズを **[スキャナーの最大値]** に設定する必要があります。

イメージの向き

- **縦**：通常の縦長の向きにイメージを表示します。
- **[横]** ：横長の向きにイメージを表示します。
- **自動**：スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを適正な方向に回転します。
- **自動 - デフォルト 90 度**：スキャナーが各原稿を分析して、原稿が送信された方法を判断し、イメージを適正な方向に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 90度回転します。
- **自動 - デフォルト 180 度**：スキャナーが各原稿を分析して、原稿が送信された方法を判断し、イメージを適正な方向に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 180 度回転します。
- **自動 - デフォルト 270 度**：スキャナーが各原稿を分析して、原稿が送信された方法を判断し、イメージを適正な方向に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 270 度回転します。

[ページの向き] — スキャナーにセットする原稿の向きを選択できます。**[用紙上端より]**、**[用紙下端より]**、**[用紙左端より]**、**[用紙右端より]** のいずれかを選択します。

[スキャン領域] — [スキャン領域] ダイアログボックスを表示します。[スキャン領域] オプションは、クロッピングオプションが **[ガイド幅に合わせる]** または **[ドキュメントに合わせる]** に設定されている場合に利用できます。詳細については、「[スキャン領域] ダイアログボックス」を参照してください。

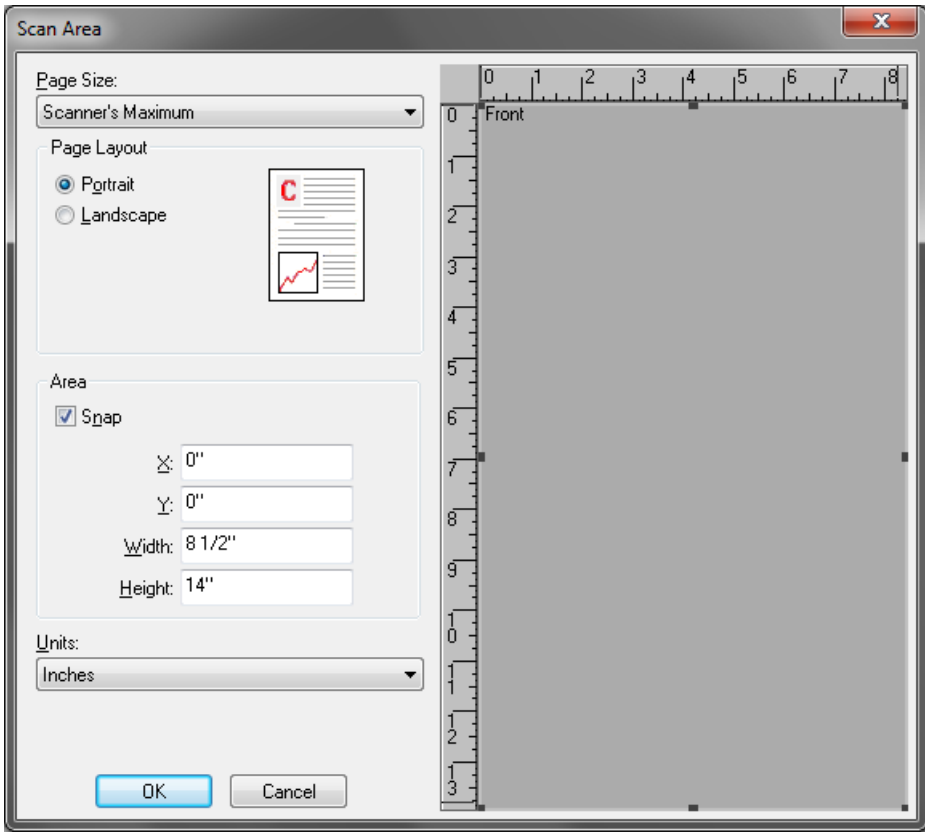
[スキャン領域] ダイアログボックス

[スキャン領域] ダイアログボックスでは、ホスト PC に返されるイメージデータの広さを定義します。

注：

- メインタブで選択したクロッピングオプションにもとづいて、(**標準** または **結合**のいずれかの) **イメージモード**を選択します。**標準**を選択した場合、定義する面（**[表面イメージ #1]**、**[表面イメージ #2]**、**[裏面イメージ #1]**、または **[裏面イメージ #2]**）を選択します。**[結合]** を選択した場合、結合イメージの方向（**表面を上**、**表面を下**、**表面を左**、または**表面を右**）を選択します。すべてのカメラ選択項目に対して定義されたスキャン領域は、それぞれ独立しています。
- スキャン領域ダイアログボックスは、選択したメインタブで**ガイド幅に合わせる**または**ドキュメントに合わせる**が選択された場合に使用できます。

[レイアウト] タブの **[スキャン 領域]** を選択すると、[スキャン領域] ダイアログボックスが表示されます。



[ページサイズ] — スキャナーが最初に選択された時点でのデフォルトの用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストから用紙サイズを選択できます。

注：用紙サイズはレイアウトタブにも表示されます。[スキャン領域] ダイアログボックスで設定を変更すると、[レイアウト] タブにも変更内容が反映されます。逆の場合も同じです。

ページレイアウト

- **縦**：通常の縦長の向きにイメージを表示します。
- **横**：横長の向きにイメージを表示します。

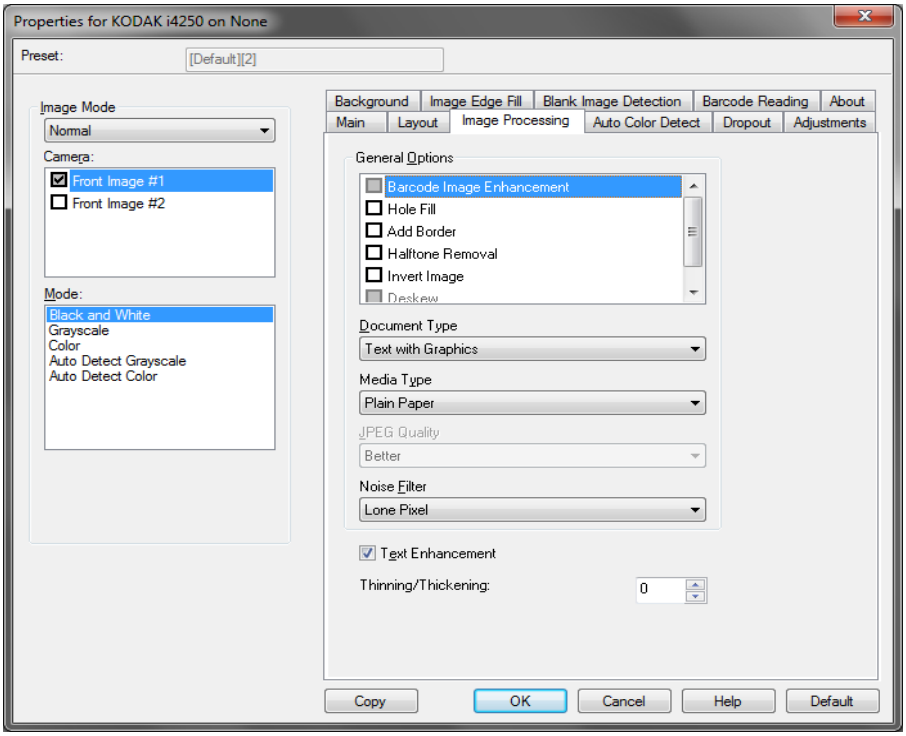
領域

- **[スナップ]** — プレビューウィンドウの大きさを 0.3175 cm 単位で制御する場合に、このオプションを有効にします。このオプションは、**ピクセル**モードでは無効になります。
- **X**：スキャナーの左端からスキャン始点の横位置を設定します。
- **Y**：スキャナーの上端からスキャン始点の縦位置を設定します。
- **幅**：スキャン領域の幅を設定します。
- **高さ**：スキャン領域の高さを設定します。

単位 — 領域定義する単位を **[ピクセル]**、**[インチ]**、**[センチメートル]** から選択します。

[イメージ処理] タブ

[イメージ処理] タブには、以下のオプションがあります。



一般オプション

- **バーコード画像処理** — アプリケーションでの読取り用のバーコードを最適化するようにスキャナーを設定します。スキャナーは白黒のイメージの中に 1D と 2D のバーコードを自動的に検出し、スキャン後、容易にバーコードを読取れるように、検出されたバーコードに特殊な画像処理を適用します。コダックアラリスが提供するバーコード読取り機能は、画像処理中、高解像度グレースケールデータを使用して実行されるため、バーコードイメージ強調は、ISIS ドライバーで有効化されたバーコード読取りには適用できません。
- **[パンチ穴 除去]** — 原稿の端の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、円、長方形、および不定形 (例、二重穴が開いている、またはバインダーから文書を取り外した際に発生した可能性がある多少の裂け目がある)。

  注：写真をスキャンする場合は**パンチ穴除去**を有効化しないでください。

- **[境界線を追加]** — イメージの上下左右に、外枠を追加します。このオプションは **[アグレッシブ]** が選択された場合に使用できます。
- **[ハーフトーン除去]** — ハーフトーンスクリーンを使って、点描画の文字やイメージ、濃淡のある背景やカラーの背景を持つイメージ品質を高め、ハーフトーンスクリーンにより発生したノイズを効果的に除去します。

- **[画像を反転]** — 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

  注：ご使用のアプリケーションがイメージデータの解析／処理を誤り、希望とは異なるイメージが保存される場合は、このオプションで対応できます。

- **[傾き補正]** — 原稿の先端の ±0.3 度以内の傾きが自動的に補正されます。自動傾き補正では、最大 45 度までの傾きを検出し、200 dpi で 24 度まで、300 dpi で 10 度まで補正できます。このオプションは［**自動**］が選択された場合に使用できます。

  注：データの損失を防ぐために、原稿の四隅が搬送路の中に収まっていることを確認してください。

ドキュメントタイプ

- **テキスト**：原稿の大部分が文字の場合に選択します。
- **文字と図形**：文章、グラフィック（棒グラフ、円グラフなど）、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **文字と写真**：文字と写真が混在している原稿の場合に選択します。
- **写真**：主に写真で構成された原稿の場合に選択します。

書類のタイプ — スキャンする用紙の素材や重量に基づいてタイプを選択します。オプションは、**普通紙、薄紙、光沢紙、カードストック**、**雑誌**です。

[JPEG (Joint Photographic Editor Group) **品質]** — JPEG 圧縮を選択した場合、いずれかの品質オプションを選択します。

- **ドラフト**：圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
- **標準**：標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
- **高**：一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
- **最高**：小さい圧縮率で良い品質のイメージが生成されます。
- **高品質**：最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

ノイズフィルタ

- **なし**
- **[孤立ピクセル]**：白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **マジョリティルール**：各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺のピクセルの大部分が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。

テキストエンハンスメント — 文字が見やすくなるようにスキャナーを設定できます。原稿がほとんど文字で、文字がつながっていない、またはスムーズではない場合にこのオプションをオンにします。フォントサイズおよび / または解像度が十分な大きさ / 高さの場合、このオプションはドットマトリクス印刷の読みやすさを向上し、質の悪い文字を改善します。

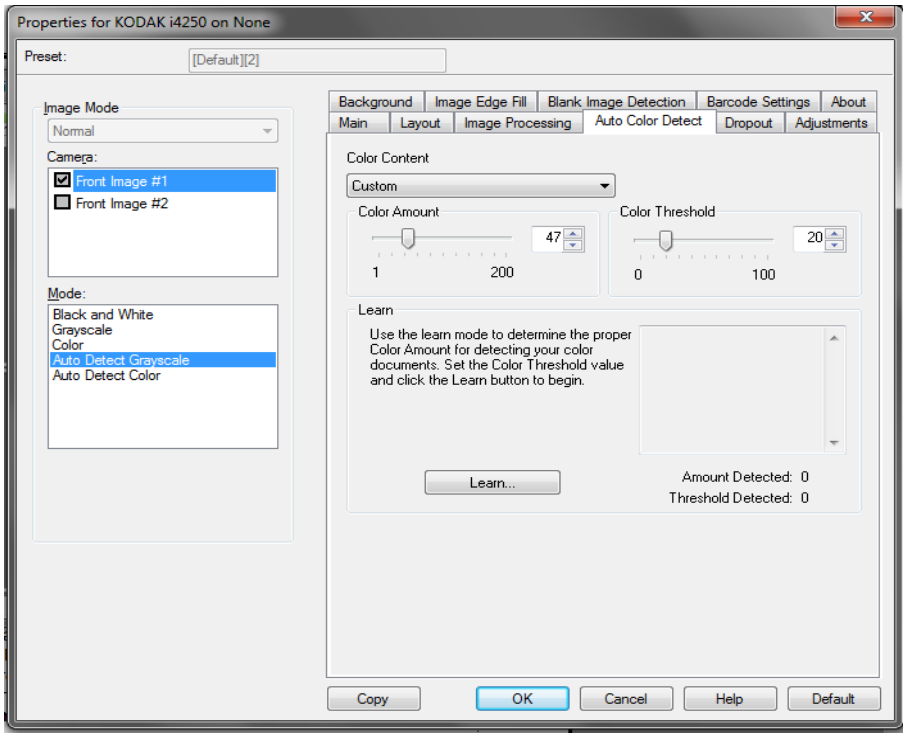
注：

- **細線化 / 太線化**を使用していると、このオプションが小さいフォントには反映されない、または効果が落ちる場合があります。
- フォントサイズが小さすぎる、または解像度が十分な高さではない場合、このオプションで文字を塗りつぶす原因となる場合があります。

細線化 / 太線化 — 線や文字を細線化または太線化します。この設定値を小さくすると線や文字を細く / 小さくします。この設定値を大きくすると線や文字を太く / 大きくします。デフォルト値は 0 で、細線化または太線化はオフです。

[カラーの自動検知] タブ

[カラーの自動検知] タブには、以下のオプションがあります。



カラー設定

- オフ：デフォルト設定です。カラーの検知をしません。
- **低**：カラー / グレースケールイメージとして保存するときに、スキャンする書類の色の量が少ない場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体の原稿や、ハイライトされた文字や写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **中**：カラー / グレースケールイメージとして保存する場合に、[低] オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。
- **高**：カラー / グレースケールイメージとして保存する場合に、[中] オプションよりも、色の割合が多い場合に選択します。中～大サイズのカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の割合が大きい写真を正しくスキャンするには、色量やカラースレッショルドの調整が必要になる場合があります。
- **カスタム**：マニュアルで **[色量]** や **[カラー スレッショルド** の値を調整することができます。

  注：[カラーの自動検知] の値を設定した場合は、まず **[中]** オプションを選択してから、通常のスキャン作業でテストしてみることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー/ グレースケールとして返された場合は、**[高]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー / グレースケールとして返された原稿が少なすぎる場合は、**[低]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。以上のオプションで満足のいく結果が得られなかった場合は、**[カスタム]** オプションを選択して色量やカラー スレッショルドを調整してください。

色量 : スキャンイメージをカラー / グレースケールで保存する際に必要な原稿上の色の量です。色量の値を増やすと、必要となるカラーピクセルの量も増加します。有効値は 1 ～ 200 です。

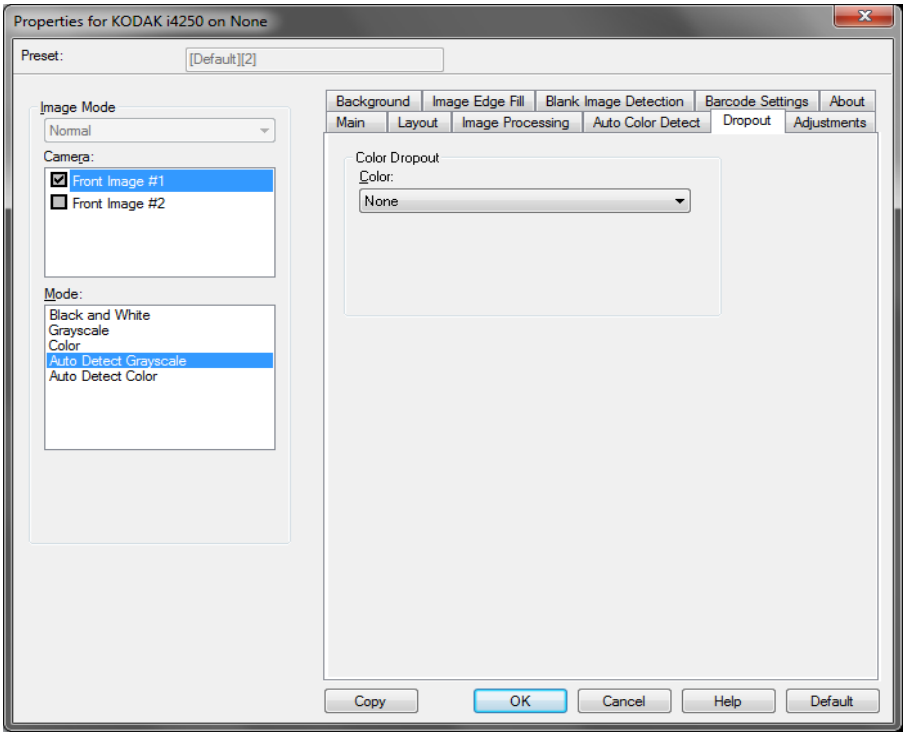
カラー スレッショルド : 色量の算出時に、色として識別させるためのカラーしきい値や彩度の割合（薄青と紺色の対比など）です。値を増やすと、必要となる彩度が高くなります。有効値は 0 ～ 100 です。

自動設定 — スキャンしたサンプルのカラー原稿に基づいて設定値を算出します。**[自動設定]** を選択する前に、入力エレベータに 5 枚以上のカラー原稿をセットしてください。これらの原稿をスキャンし、分析することで推奨される [色量] が決定します。

注：計算に応じて **[色量]** と **[カラー スレッショルド]** のスライダが自動的に調整されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は、**[カラー スレッショルド]** の値を手動で調整してください。

[ドロップアウト] タブ

[ドロップアウト] タブには、以下のオプションがあります。

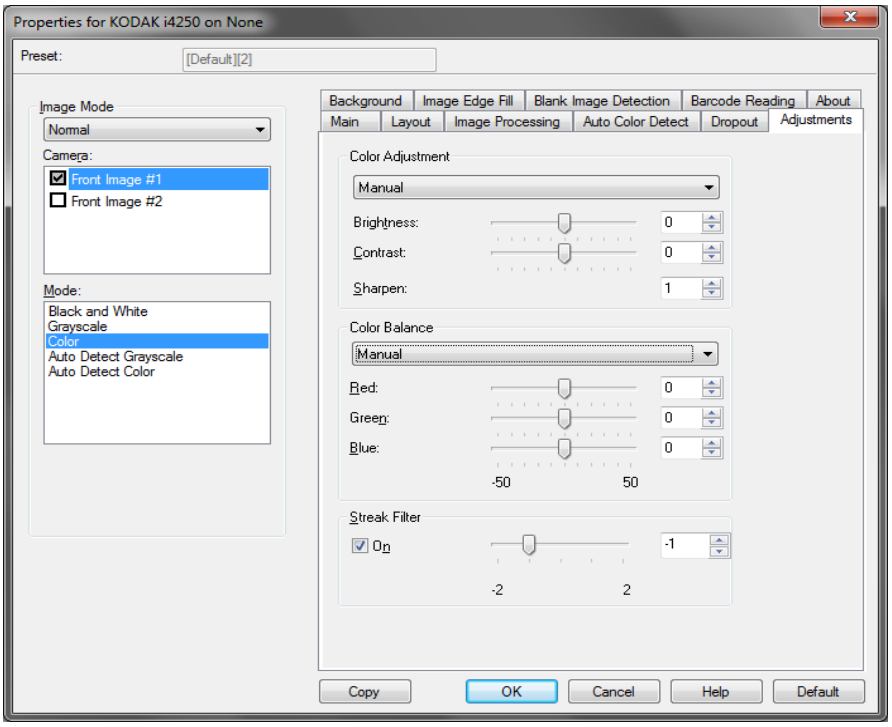


カラードロップアウト — フォームの背景を消去するために使用します。背景が消去されると、入力されたデータのみがイメージとして保存されます（フォームの線とボックスの削除など）。白黒イメージの場合、スキャナーがイメージの生成のために解析するグレースケールイメージは、設定に影響を受けます。

- **[カラー]**：ドロップアウトする色を選択します。
  - **なし**
  - **赤**：**赤色をドロップアウトします。**
  - **緑**：**緑色をドロップアウトします。**
  - **青**：**青色をドロップアウトします。**
  - **オレンジ色**
  - **オレンジ色と赤色**

[調整] タブ

[調整] タブには、以下のオプションがあります。



[カラー調整] — 利用できるオプションは次のとおりです。

[白黒、グレースケール]、**[グレースケールの自動検知]** モードの場合に、利用できるオプションは次のとおりです。

- **（なし）**
- **手動**
- **自動**

[手動] を選択している場合は、**輝度**、**コントラスト**、**シャープネス**の値を調整できます。

- **明度** — カラー／グレースケールイメージの白レベルを調整します。値の範囲は、**[-50]** から **[50]** です。
- **コントラスト** — 暗いエリアの暗さと、明るいエリアの明るさを変更します。値の範囲は、**-50 ～ 50** です。
- **シャープネス** — イメージ内の境界線をより目立つようにします。値の範囲は、**0 ～ 3** で、シャープネスの値が最も少ないのが 0 です。

[自動] を選択している場合は、**シャープネス**の値のみ調整できます。

注：*[カラーバランス]* は **[白黒]**、**[グレースケール]** または **[グレースケールの自動検知] の場合は利用できません。**

[カラー] または **[カラーの自動検知]** モードの場合に、利用できるオプションは次のとおりです。

- **（なし）**
- **手動**
- **自動**

[手動] を選択している場合は、**輝度、コントラスト、シャープネス**の値を調整できます。

- **明度** — カラー／グレースケールイメージの白レベルを調整します。値の範囲は、**[-50]** から **[50]** です。
- **コントラスト** — 暗いエリアの暗さと、明るいエリアの明るさを変更します。値の範囲は、**-50 ～ 50** です。
- **シャープネス** — イメージ内の境界線をより目立つようにします。値の範囲は、**0 ～ 3** で、シャープネスの値が最も少ないのが 0 です。

[自動] を選択している場合は、**シャープネス**の値のみ調整できます。

[カラーバランス] — 利用できるオプションは次のとおりです。

- **（なし）**
- **手動**
- **自動**
- **自動 - 詳細**

[手動] を選択している場合は、スライダーバーを右または左に動かす、テキストボックスに値を入力する、または上下矢印を使用して **[赤]**、**[緑]**、**[青]** の値を調整できます。

- **[赤]** — カラーイメージの赤のレベルを調整します。
- **[緑]** — カラーイメージの緑のレベルを調整します。
- **[青]** — カラーイメージの青のレベルを調整します。

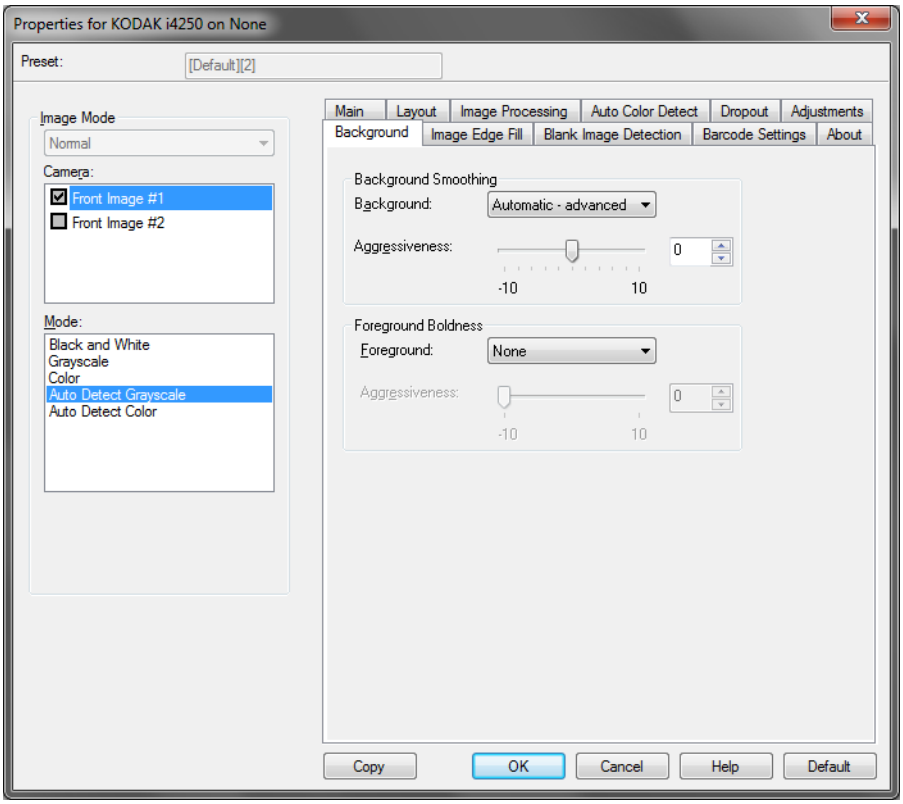
[自動] を選択している場合は、スキャナーが原稿を分析して可能な限り最高のイメージを生成します。

自動 - 詳細：このオプションの詳細を調整したい場合に使用します。*[強度]* スライダーバーを使用して、カラーバランスの強弱を調整します。値は、**-2** ~ **2** までの範囲です。

縦縞フィルタ — イメージから縦縞をフィルタするようにスキャナーを設定できます。縦縞とは、元の原稿には存在しないにもかかわらず、イメージに現れることがある線のことです。縦縞は、ドキュメント上の汚染物質 (例、泥、塵、または擦り切れた端）が原因で発生するか、スキャナーの推奨される清掃手順に従わないために発生する場合があります。スライドバーを -2 から 2 動かし、縦縞がフィルタされる範囲を調整します。デフォルト値は 0 です。

[背景] タブ

[背景] タブには次のオプションがあります。



注：[背景] タブのオプションは白黒モードでは使用できません。

背景のスムージング — 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、背景色を均一にします。このオプションを利用すると、イメージ品質を向上し、ファイルサイズを軽減できます。

注：背景のスムージングの写真への使用はお勧めしません。



実行前　　実行後

- なし
- **自動**：背景色を 3 色までスムージングします。
- **自動 - 詳細自動**：オプションの詳細を設定したい場合に使用します。
  - **強度** — スムージングの強弱を決定できます。値の範囲は、[-10] から [10] です。

前景のボールド化 — ドキュメントやフォームの前景（テキスト、行など）をさらに目立つようにする場合、このオプションを使用します。前景のボールド化 を有効にすると、グレーや中間色が濃くなります。

注：前景のボールド化の写真への使用はお勧めしません。

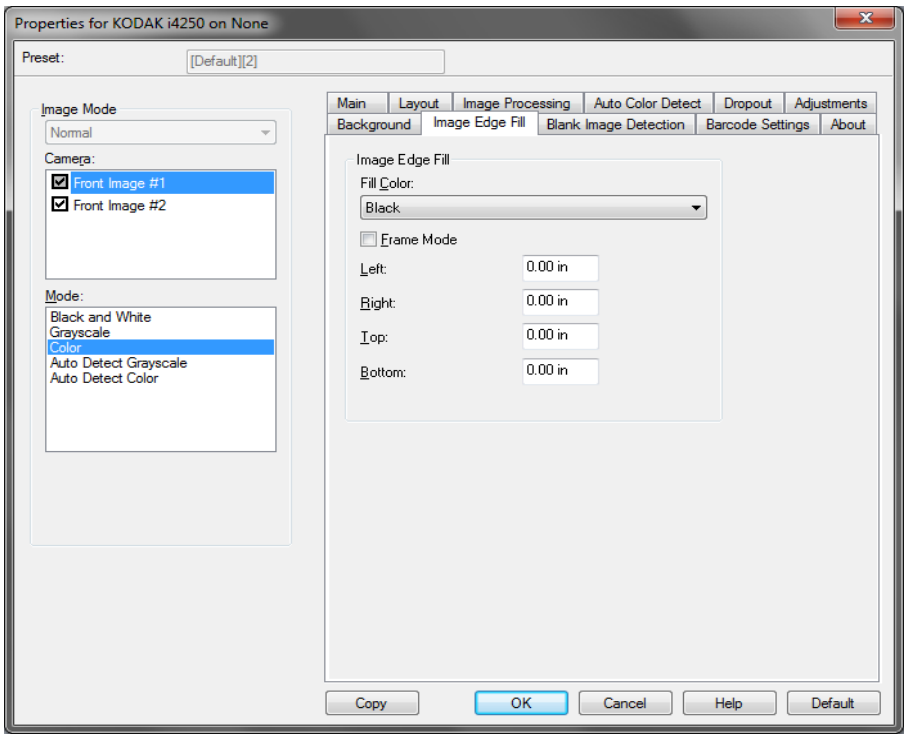


実行前　　実行後

- **なし**
- **自動**：文字や線がすべて太くなります。
- **自動 - 詳細**：自動オプションの詳細を設定したい場合に使用します。
  - **強度** — 強弱を調整して前景を調整します。値は、**-10** ~ **10** までの範囲です。

イメージの端を埋めるタブ

最終的に出力される電子イメージの端の領域を、選択された色で埋めます。このオプションは、他のイメージ処理オプションがすべて適用された後に適用されます。



埋める色 — 端を埋める色を選択できます。

- **なし**
- **白**
- **黒**
- **自動**：イメージの端が周囲の色で自動で埋められます。
- **自動 - 破れを含める**：イメージ端埋めに加え、イメージの端の破れも補完されます。

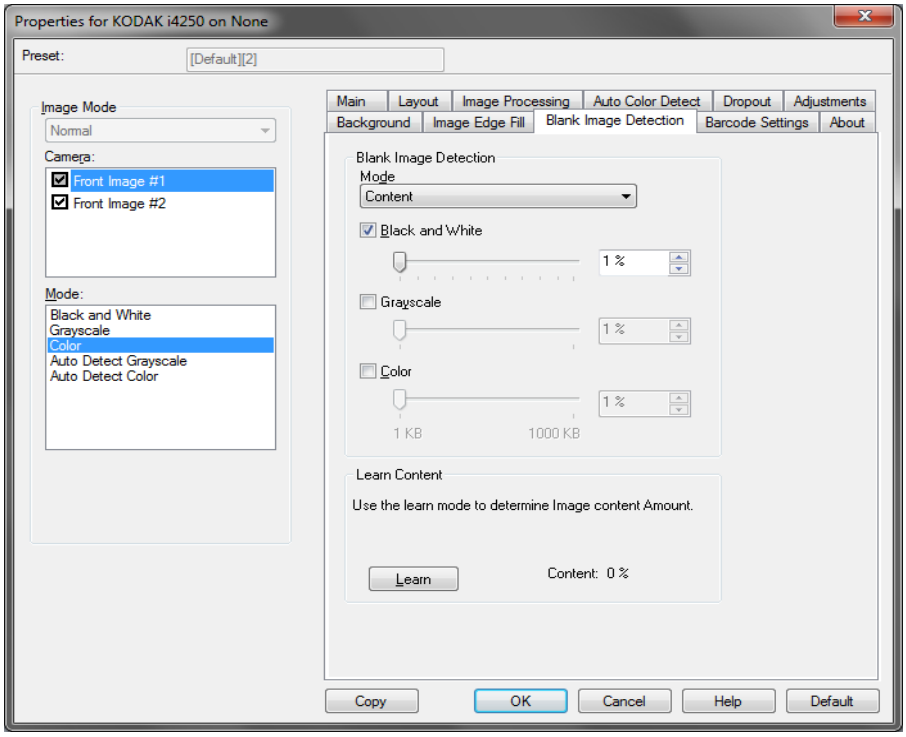
[白] または **[黒]** を選択すると、次のオプションを利用できます。

- **フレームモード**を選択している場合は、*[イメージの端埋め]* ドロップダウンリストで選択した色でイメージの4辺が等しく埋められます。
- **フレームモード**が選択されていない場合は、スキャンしたイメージの 4 辺から **[上]**、**[左]**、**[右]**、**[下]** 領域の値を選択して端埋めできます。

注：イメージ端埋めを使用する場合は、 大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。

[ブランクイメージ検出] タブ

白紙イメージ検出 - スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。イメージが白紙と判断されるイメージのサイズ (KB) を指定します。設定値未満のサイズのイメージは作成されません。このオプションを使用する場合は、削除するイメージの種類（ **白黒** 、グレースケール 、カラー）ごとに白紙と判断されるイメージサイズを指定する必要があります。これらのフィールドに値を入力しない場合は、すべてのイメージが保持されます。



モード

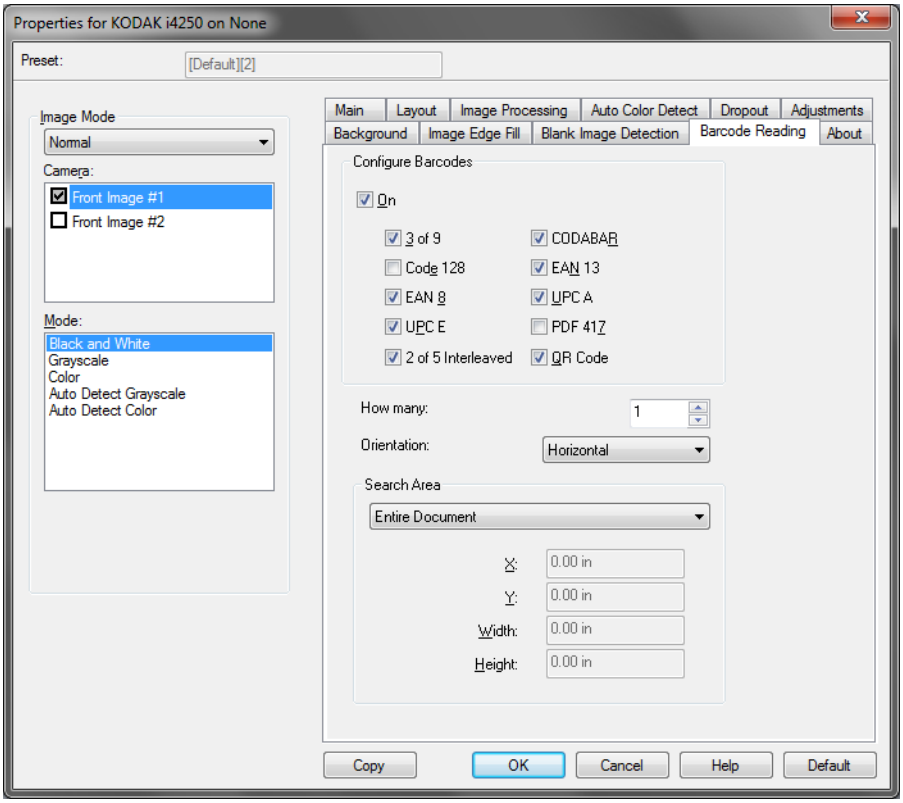
- **オフ**:すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **サイズ**：（他のすべての設定を適用後に）イメージのサイズに基づいて、白紙であるかどうか判断されます。
- **内容**：イメージ内の原稿内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。**白黒**、**グレースケール**、**カラー**を選択し、スキャナーが白紙と判断する最大の内容量を選択します。情報量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断され、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は、**[0]** から **[100]** です。

自動設定 — スキャンされる原稿にもとづいてスキャナーが内容量を判断します。この機能を使用する場合は、[自動設定] を クリックします。

注：自動設定モードは表面と裏面を同時に適用できません。適用する読取り面を選択してください。

[バーコード読取り] タブ

[バーコード読取り] タブでバーコードのイメージを検索して情報をスキャンアプリケーションに戻すようにスキャナーを設定します。



バーコードの設定

- **[オン]**：バーコード読取りをオンにします。**[オン]** を選択すると、すべてのバーコードタイプが選択されます。スキャナーで検索しないバーコードタイプの選択をすべて解除します。
  - 3 / 9
  - Code 128
  - EAN8
  - UPC E
  - 2 / 5 インターリーブ
  - CODABAR
  - EAN13
  - UPC A
  - PDF 417
  - QR コード
- **数**：検索するバーコードの数を選択します。
- **方向**：検索するバーコードの方向を選択します。選択内容は、**なし**、**横**、**縦**、**両方**です。

  注：これは最終イメージに影響します（クロッピングおよび回転の適用後）。

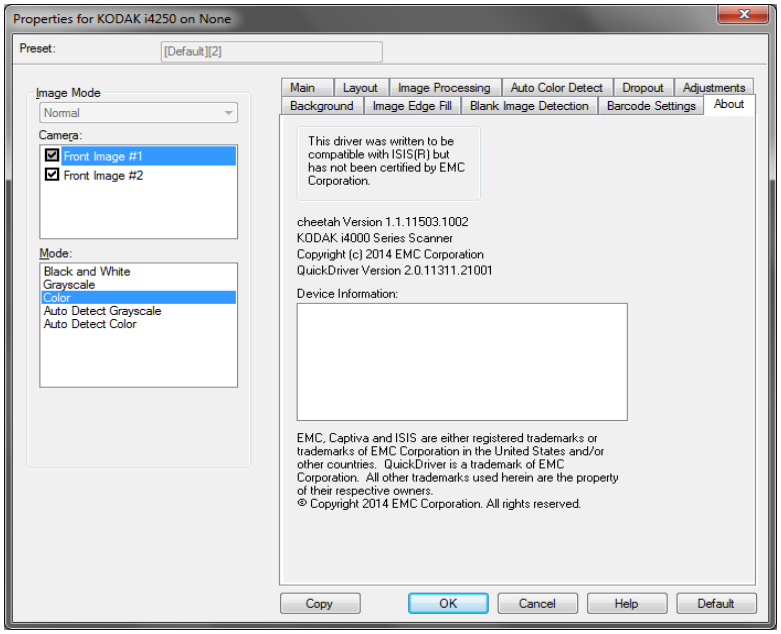
- **検索エリア**：イメージの検索エリアを選択します。
  - ドキュメント全体
  - **原稿の一部**：選択すると、以下のフィールドに入力できます。
    - **X** は画像の左端からの距離です。
    - **Y** は画像の上端からの距離です。
    - **幅と高さ**：検索エリアの幅と高さです。

注：

- これらは最終イメージに影響します（クロッピングおよび回転の適用後）。
- **[ドキュメントの一部]** が選択されている場合は、*左上* から *右下* のバーコード読取り規則が選択した対象領域に適用されます。
- **[イメージ結合]** が選択されている場合は、表面イメージのバーコード設定が結合された表面および裏面イメージに適用されます。

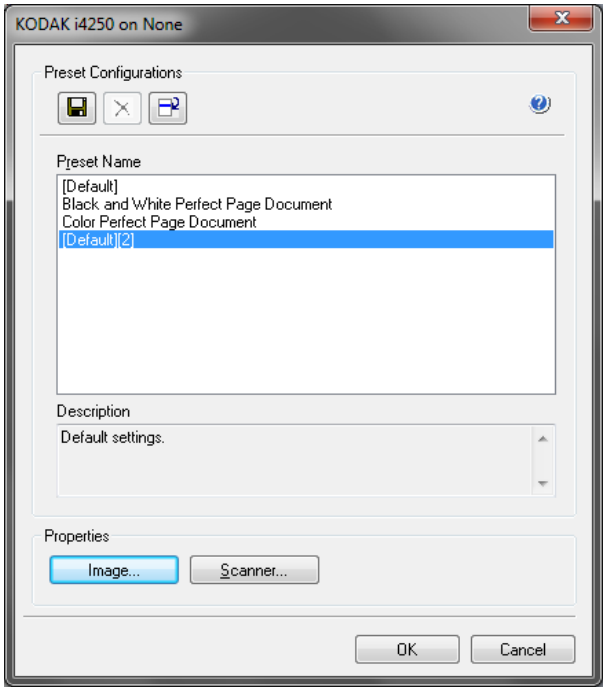
[バージョン情報] タブ

バージョン情報タブはスキャナーとドライバについての情報を表示します。



スキャナー設定の実行

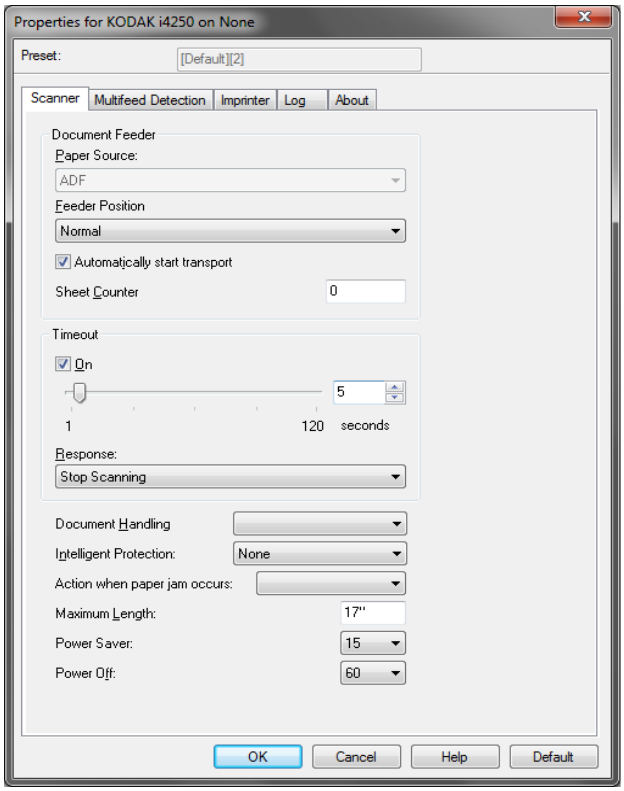
ISIS ドライバからスキャナー設定を開くには、Scan Validation Tool を前述の手順で開き、ISIS ドライバにアクセスします。



- **[スキャナー]** をクリックすると、スキャナーのデバイス設定ができます。以降の章ではスキャナー設定の詳細や手順について説明します。イメージ設定の手順については、本ガイドに前述の「イメージ設定の実行」という章を参照ください。

[スキャナー] タブ

[スキャナー] タブには、以下のオプションがあります。



ドキュメントフィーダ

給紙方法

- **自動**：最初に ADF に用紙があるか確認します。入力エレベータにドキュメントがない場合、スキャナーはフラットベッドからスキャンします。*このオプションは、フラットベッドが取り付けられている場合のみ利用できます。*
- **ADF**：入力エレベータは一番高い位置にあります。このオプションは、入力エレベータから 25 枚以内の用紙をスキャンしている場合に推奨されます。
- **フラットベッド**：スキャナーはフラットベッドからスキャンします。*このオプションは、フラットベッドが取り付けられている場合のみ利用できます。*

フィーダ位置

- **標準**：入力エレベータは一番高い位置にあります。このオプションは、入力エレベータから 25 枚以内の用紙をスキャンしている場合に推奨されます。
- **100 枚**：このオプションは、入力エレベータから 25 ～ 100 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。
- **250 枚**：このオプションは、入力エレベータから 100 ～ 250 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。
- **500 枚**：このオプションは、入力エレベータから 250 ～ 500 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。

- **自動 - 100 枚**：まず、入力エレベータに用紙があるかどうか確認し、入力エレベータにドキュメントがない場合、スキャナーがフラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 25 ～ 100 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。*このオプションは、フラットベッドが取り付けられている場合のみ利用できます。*
- **自動 - 250 枚**：まず、入力エレベータに用紙があるかどうか確認し、入力エレベータにドキュメントがない場合、スキャナーがフラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 100 ～ 250 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。*このオプションは、フラットベッドが取り付けられている場合のみ利用できます。*
- **自動 - 500 枚**：まず、入力エレベータに用紙があるかどうか確認し、入力エレベータにドキュメントがない場合、スキャナーがフラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 250 ～ 500 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。*このオプションは、フラットベッドが取り付けられている場合のみ利用できます。*

自動的にトランスポートを開始 — このオプションが選択されると、スキャナーは原稿が入力エレベータにセットされるまで最長 10 秒待機してから、スキャンを開始します。また、入力エレベータが空になった場合、用紙が入力エレベータにセットされるとスキャナーは自動的にスキャンを再開します。スキャナーはドキュメントフィーダタイムアウトにより指定された時間待機します。

用紙枚数カウンタ — スキャナーに入る次の原稿に割り当てられる番号を入力します。これは、スキャナーで順次カウントされ、イメージヘッダに送られます。

タイムアウト — 最後の原稿が取り込まれてからトランスポートタイムアウトが実行されるまでの時間を設定します。遅延時間設定を 1 ～ 120 秒の間で指定します。

レスポンス - ドキュメントフィーダがタイムアウトになったときに 実行するアクションを指定します。

- **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。
- **スキャン一時停止**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。オペレータコントロールパネルの **[開始 / 一時停止]** ボタンを押すと、スキャンが再開します。オペレータコントロールパネルの **[停止]** ボタンを押すか、またはスキャンアプリケーションからスキャンを停止できます。
- **スキャンの一時停止 - 用紙を待機**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。原稿が入力エレベータに追加されると、スキャンが自動的に再開されます。

[排紙方法] — スキャナーの原稿の排紙方法を選択できます。これにより、原稿をスキャナーにフィードする方法、スキャナーに通す速度、および出力トレイに配置する方法に影響が及びます。

- **標準**：追加の処理は行われません。すべての原稿のサイズが同様である場合に最適です。
- **サイズ 混在**：サイズが混在するドキュメントセット用の出力トレイで、ドキュメントを積み重ねる／並べる方法を制御するのに役立ちます。これは、大多数のサイズ混在原稿セットに使用できます。
- **サイズ混在**：**ベスト**：ドキュメントセットのサイズにかなり幅がある場合、このオプションにより、出力トレイ内でドキュメントを積み重ねる／並べるための最適な制御が提供されます。

インテリジェントプロテクション — スキャナーに正しく入っていないドキュメントを、スキャナーがどの程度積極的に検出するかを選択できます。これは、スキャンする際に、原稿の準備がきちんと整っていない場合に発生します（ホチキス止めやクリップされたままの原稿など）。

- なし
- **標準**：これは推奨するオプションであり、ドキュメントの損傷を最小限にし、スキャナーを必要以上に停止させないことの双方でバランスを取ります。
- **最小**：ドキュメントを必要以上に検出することによりスキャナーがあまりにも頻繁に停止する場合、このオプションを選択します。

  注：検出しないと、原稿はさらに損傷する場合があります。

- **最大**：ドキュメントの損傷を極力防ぐ場合、このオプションを選択します。

  注：スキャナーが必要以上に停止してしまう場合があります。

紙詰まりが発生した場合の動作 — スキャナーが紙詰まりを検出した場合に何をするか選択できます。

- **スキャンの停止**：スキャンを停止し、コントロールをスキャンアプリケーションに戻します（例：ジョブの終了）。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの一時停止**：紙詰まりリカバリオプションを自動化したい場合、**[スキャンの一時停止]** を選択するとスキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（例：フィーダの停止）。このオプションにより紙詰まりからすぐにリカバリできるため、オペレータの効率を向上します。搬送路の原稿を取り除いたら、オペレータコントロールパネルの **[開始 / 一時停止]** ボタンを押すとスキャンが再開します。オペレータコントロールパネルの **[停止]** ボタンを押すか、またはスキャンアプリケーションからスキャンを停止できます。

最長原稿サイズ — ドキュメントセット内で最長の原稿サイズの値を設定します。

注：

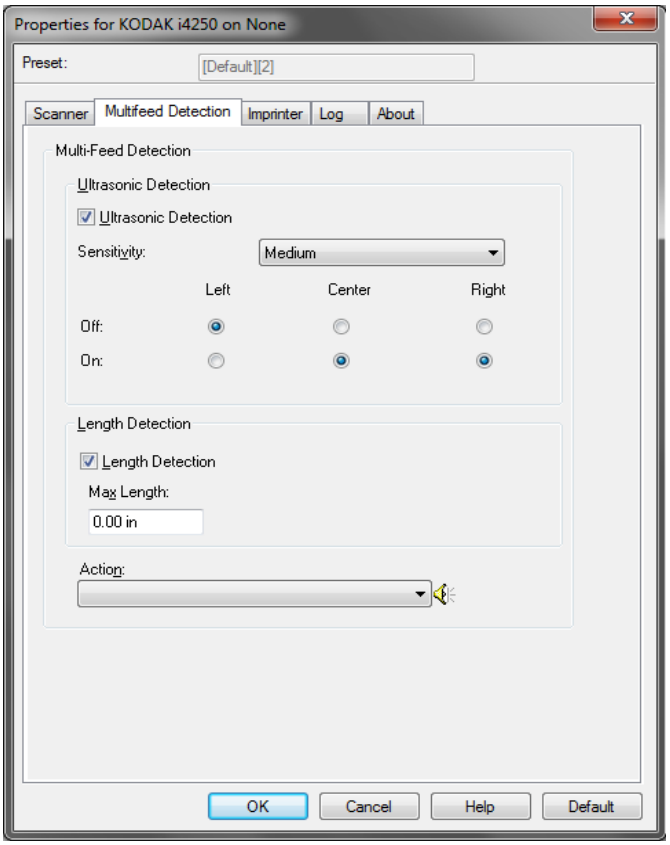
- 長尺ドキュメントはすべての設定の組み合わせをサポートしません（例：解像度、カラー、グレースケールなど）。より柔軟にアプリケーションに対応できるように、スキャナーは、許容値を超える原稿が確認されるまでエラーを生成しません。
- 長尺ドキュメントの場合には、スキャナーの処理能力が減少することがあります。

電源オフ — 自動的に電源が切れるまで、スキャナーを節電モードにしておく時間（分）を設定できます。

節電モード — スキャナーが操作されていないときにアイドル状態に移行するまでの時間（**1** ～ **240** 分）を設定できます。デフォルトは 15 分です。

重送検知タブ

重送検知機能は、原稿が重なった状態で給紙された時点で重送を検知します。重層検知はホッチキスで綴じられた原稿、原稿への粘着物、または静電気を帯びている原稿が原因で生じます。[重層検知] タブには、以下のオプションがあります。



超音波検知機能 — 重送検知機能を設定する場合に、このオプションを選択します。

- **感度** — 搬送路に複数の原稿が重なった状態で送られたかどうかを、検知レベルを指定します。重送は、原稿間のすきまを検出することにより、識別されます。そのため、厚さの異なる原稿が混在しているような場合でも、重送を検知することができます。

- **低**：レベルが低い設定で、ラベルが貼られた原稿、紙質の悪い原稿、皺がある原稿を重送として認識する可能性がもっとも低くなります。
- **中**：厚さが異なる原稿や、ラベルを貼った原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、大部分のラベルは重送とは認識されません。
- **高**：最もレベルが高い設定です。この設定は、すべての原稿が 75.2 g/m^2 のボンド紙である場合など、厚さが同じ原稿をスキャンする場合に適しています。

3 つのセンサが搬送路の幅をカバーします。重送書類が正しく検知されるためには、これらのセンサの下を通過しなければなりません。

- **左、中央、右**：このオプションで、どのセンサを有効にするか選択できます。たとえば、原稿の左側にメモが「貼付」されている場合、左のセンサをオフにできます。

長さによる検知 — 有効にすると、重送検知されずにスキャンされる原稿の最大の長さを選択できます。同じサイズの原稿のスキャン時に重送を検出するために長さ検出を使用します。たとえば、A4 の原稿を縦でスキャンする場合は、*[最大長]* フィールドに 28.57 cm と入力します。最大 35.56 cm までの値を指定できます。

[アクション] — 重送検知時のスキャナーの動作を選択します。オプションに関係なく、状態はスキャナーのログに記録されます。

- **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送原稿のイメージは生成されません。搬送路に用紙が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャン停止 - イメージ生成**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送書類のイメージが生成されます。搬送路に用紙が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの停止 - 用紙を搬送部に残す**：スキャンを直ちに停止し（搬送路はクリアされません）、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送原稿のイメージは生成されません。搬送路から原稿を取り除き、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの停止 - 用紙を排紙口に残す**：スキャンを停止し、重送原稿の最後の部分を搬送口に残し、コントロールをスキャンアプリケーションに戻します（ジョブを終了します）。重送原稿のイメージは生成されません。搬送路から原稿を取り除き、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの続行**：スキャナーがスキャンを継続します。重送書類のイメージが生成されます。
- **スキャンの一時停止 - イメージ生成**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。重送書類のイメージが生成されます。オペレータコントロールパネルの **[開始 / 一時停止]** ボタンを押すと、スキャンが再開します。オペレータコントロールパネルの **[停止]** ボタンを押すか、またはスキャンアプリケーションからスキャンを停止できます。

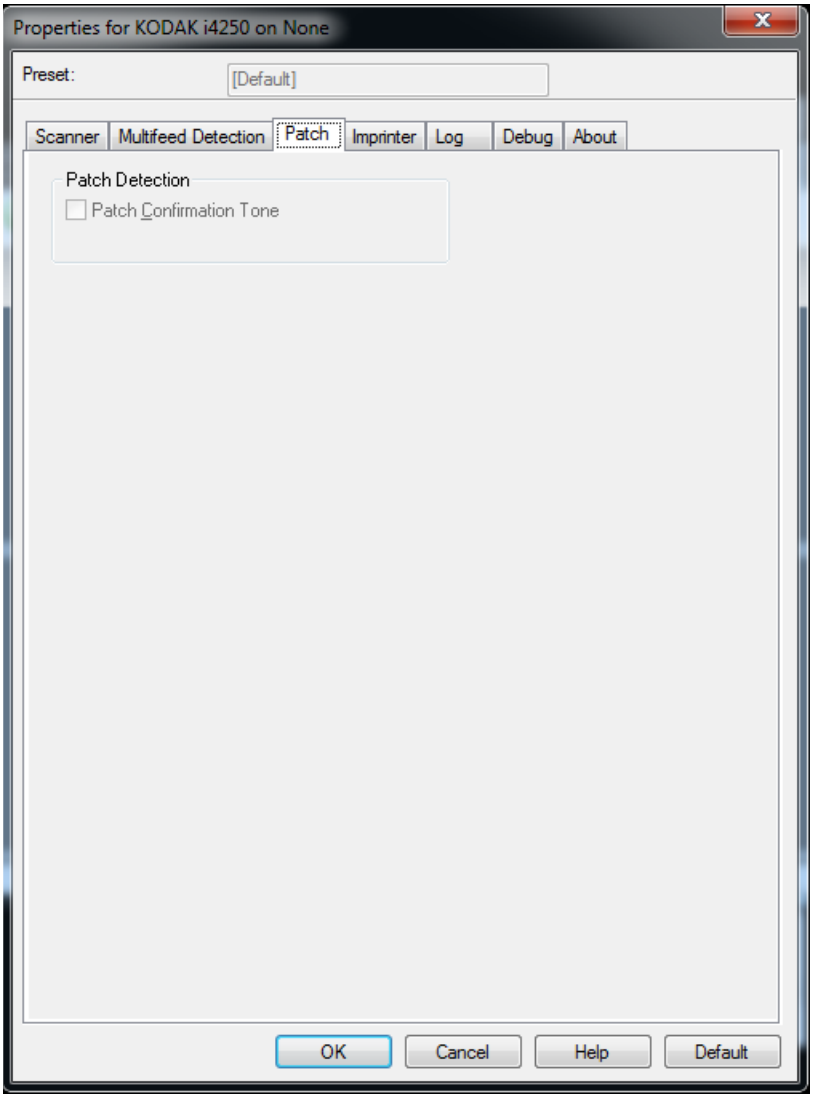
- **スキャンの一時停止 - 用紙を搬送部に残す**： スキャンがただちに停止します（搬送路をクリアしようとしません）が、スキャンアプリケーションは、追加のイメージを待機します（フィーダを停止します）。重送原稿のイメージは生成されません。スキャンセッションを開始する前に、搬送路から原稿をクリアします。オペレータコントロールパネルの **[開始 / 一時停止]** ボタンを押すと、スキャンが再開します。オペレータコントロールパネルの **[停止]** ボタンを押すか、またはスキャンアプリケーションからスキャンを停止できます。
- **スキャンの一時停止 - 用紙を排紙口に残す**：スキャンは停止し、重送原稿の最後の部分が搬送口に残りますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。重送原稿のイメージは生成されません。スキャンセッションを開始する前に、搬送路から原稿をクリアします。オペレータコントロールパネルの **[開始 / 一時停止]** ボタンを押すと、スキャンが再開します。オペレータコントロールパネルの **[停止]** ボタンを押すか、またはスキャンアプリケーションからスキャンを停止できます。
- **インタラクティブ マルチフィード リカバリ**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。重送原稿のイメージがコンピュータに表示されます。これらのイメージを承認する、または再スキャンして差し替えることができます。お使いのコンピュータまたはスキャナーで選択できます。イメージをアプリケーションに送信し、**[承認]** を選択してスキャンを再開します。**[再スキャン]** を選択すると、イメージを破棄してスキャンを再開します。**[停止]** を選択して、スキャンを停止できます。

注：重送原稿を入力エレベータにセットしてから、**[再スキャン]** を選択します。

[スピーカー] アイコン — アラーム用に希望する音 (.wav ファイル) を選択できる [開く] ダイアログボックスが表示されます。

[パッチ] タブ

パッチリーダーはあらかじめ定義されたパッチコードを自動的に感知し、原稿のレベル変更を制御するために設定できます。

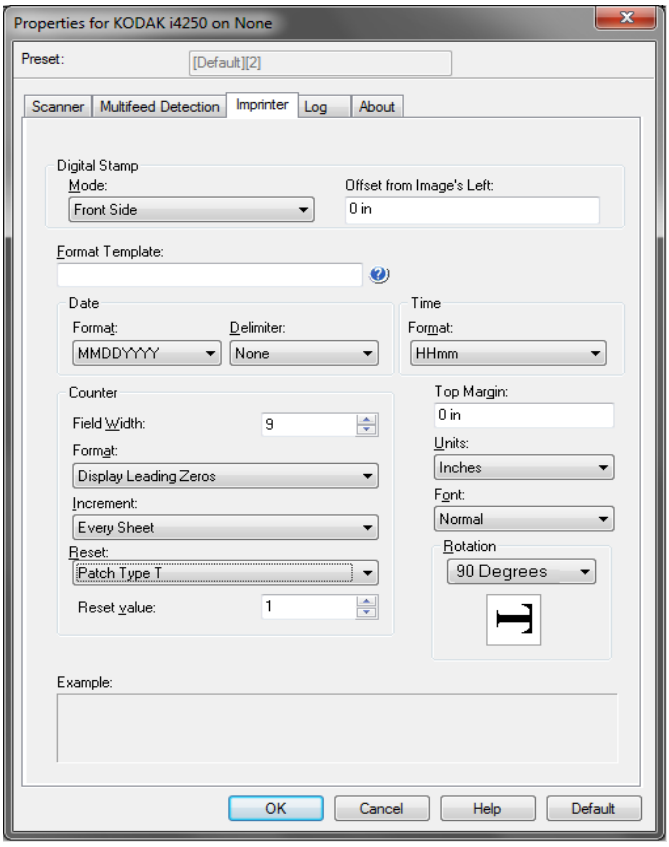


パッチ認識トーン - パッチが認識されたことを通知するために認識トーンを使用することができます。

[インプリンタ] タブ

拡張プリンタは、スキャナーの最高速度で動作します。印刷時には、日付、時刻、ドキュメント順次カウンタ、およびカスタムメッセージを追加することができます。

リテラル（静的）情報（例えば、バッチ名、オペレータなど、どの原稿に対しても同じになる情報）と、ダイナミック（動的）情報（例えば、ドキュメント順次カウンタなど、スキャンするページごとに異なる情報）の両方を入れるように設定できます。リテラル（静的）フィールドはスキャンソフトウェアによって制御されます。ソフトウェアからユーザが入力できる情報をプリンタに送信できます。用紙に印刷したり、デジタルイメージをスタンピングしたり、またはその両方が可能です。用紙に印刷する場合：



Imprinter — 用紙に対するデジタル印刷をオンにします。

デジタルスタンピングの場合：

- **モード**
  - **無効**
  - **表面** — すべての表面イメージに対するデジタル印刷をオンにします。
  - **裏面** — すべての裏面イメージに対するデジタル印刷をオンにします。

注：

- デジタルスタンプは、クロッピングおよび回転***後***にイメージに適用されます。そのため、**[表面]** と **[裏面]** の両方が有効の場合、原稿の異なる端に印刷される場合があります。
- デジタルスタンプは、**[イメージ結合]** の前に適用されるため、**[裏面]** が有効の場合、結合されたイメージに 2 回デジタル印刷されます。

イメージの左のオフセット — 値を選択して、情報が原稿の左端からどれくらい離れて印字されるか決定します。

フォーマットのテンプレート — フォーマットテンプレートは印字文字列を構築するために使用されます。印字文字列は原稿が搬送路を通過する際に印刷される文字です。印字文字列はスキャン前に原稿に印刷されるため、イメージの一部といえます。それぞれの印字文字列の最大文字数は 40 文字です（スペースを含む）。

日付

- **フォーマット**：
  - MMDDYYYY
  - MMDDYY
  - DDMMYYYY
  - DDMMYY
  - YYYYMMDD
  - YYMMDD
  - DDD（ユリウス暦）
  - YYYYDDD（ユリウス暦）
  - YYDDD（ユリウス暦）
- **区切り文字**：（例では年 / 月 / 日形式です）
  - なし
  - スラッシュ：2010/08/24
  - ハイフン：2010-08-24
  - ピリオド：2010.08.24
  - スペース：2010 08 24
- **時刻**：
  - HHmm
  - HHmmss
  - HHmmss.xx
  - hhmm
  - hhmmss
  - hhmmss.xx
  - hhmm tt
  - hhmmss tt
  - hhmmss.xx tt

カウンタ — 印字文字列にカウンタを追加する場合は、以下のオプションが使用できます。

- **フィールドの幅**：ドキュメントカウンタの幅を定義します。値は、1 ～ 9 までの範囲です。
- **フォーマット**： 印字するカウンタ値の桁数がフィールド幅以下の場合、カウンタのフォーマットを設定できます（下の例はフィールド幅が 3、カウンタ値が 4 の場合です）。次のオプションがあります。

- **リーディングゼロの表示（デフォルト）:「004」**
- **リーディングゼロの削除 :「4」**
- **リーディングゼロの圧縮 :「4」**

• **[インクリメント]**、**[リセット]**、**[リセット 値]** は *Kodak* i4850 スキャナー専用です。

- **インクリメント**：いつカウンタを増分するか設定できます。
  - すべての用紙
  - パッチタイプ T
  - パッチタイプ 1
  - パッチタイプ 2
  - パッチタイプ 3
  - パッチタイプ 6
- **リセット**：いつカウンタをリセットするか設定できます。
  - ゼロ
  - パッチタイプ T
  - パッチタイプ 1
  - パッチタイプ 2
  - パッチタイプ 3
  - パッチタイプ 6
- **リセット値**：カウンタをリセットする際の値を選択できます。カウンターをリセットすると、0 から 999,999,999 で値をリセットできます。しかし、最大値は入力した桁数で制限されます（例えば、最大桁数が 3 桁の場合、設定できる最大値は 999 です）。デフォルトは 1 です。

注：

• i4850 スキャナーのパッチパターンは縦に読まれるため、ページのはじめに 2 インチ必要です。

• **[インクリメント]** オプションを使用すると、すべてのページが印刷され、パッチページの ***後*** のページでカウンターが増分されます。

上の余白 — ドキュメントの上端からの距離の値を選択します。

注：

• 情報が完全に印字されていなくても、印字はドキュメントの後端から 6.3 mm（1/4 インチ）のところで自動的に停止します。

• 印字の横位置は、スキャナー内部のインクカートリッジの場所によって決まります。印字位置の設定についての詳細はユーザーズガイドを参照ください。

• このオプションは、物理用紙に印字する場合のみ使用できます。

単位 — **インチ**、**センチメートル**、**ピクセル**のいずれかを選択します。

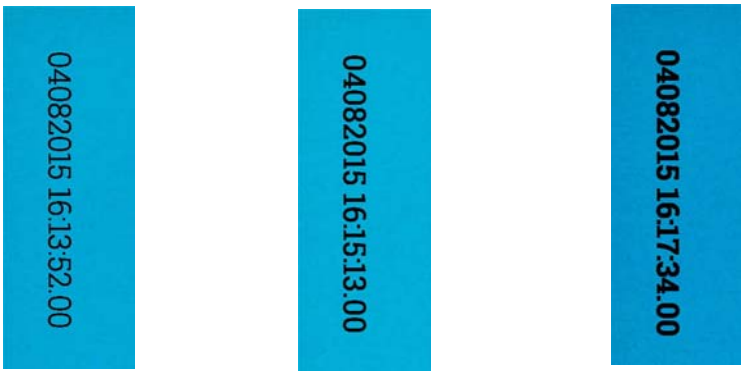
• **フォント** — 印字フォントを選択できます。

- **スタイル**:使用できる文字の書式は、**[標準]**、**[大文字]**、**[太字]**です。



標準：90 度回転 **大 :90 度回転** **太字：90 度回転**

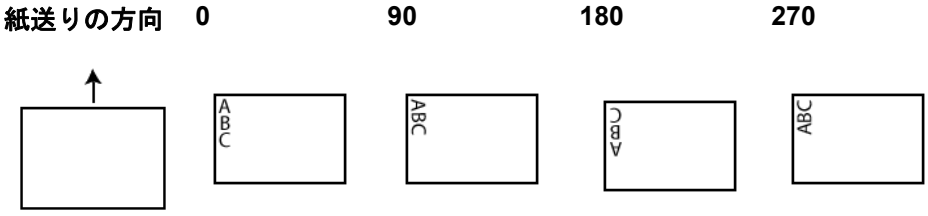
- **デジタル印刷の例**



標準：90° **太字：90°** **極太：90°**

回転 — 0 または 90 度のいずれかを選択できます。

- **方向**：文字を縦方向（原稿の先端から開始）に印字する場合、印字文字列の方向を選択できます。利用できるオプションは次のとおりです。**0、90、180、270**。

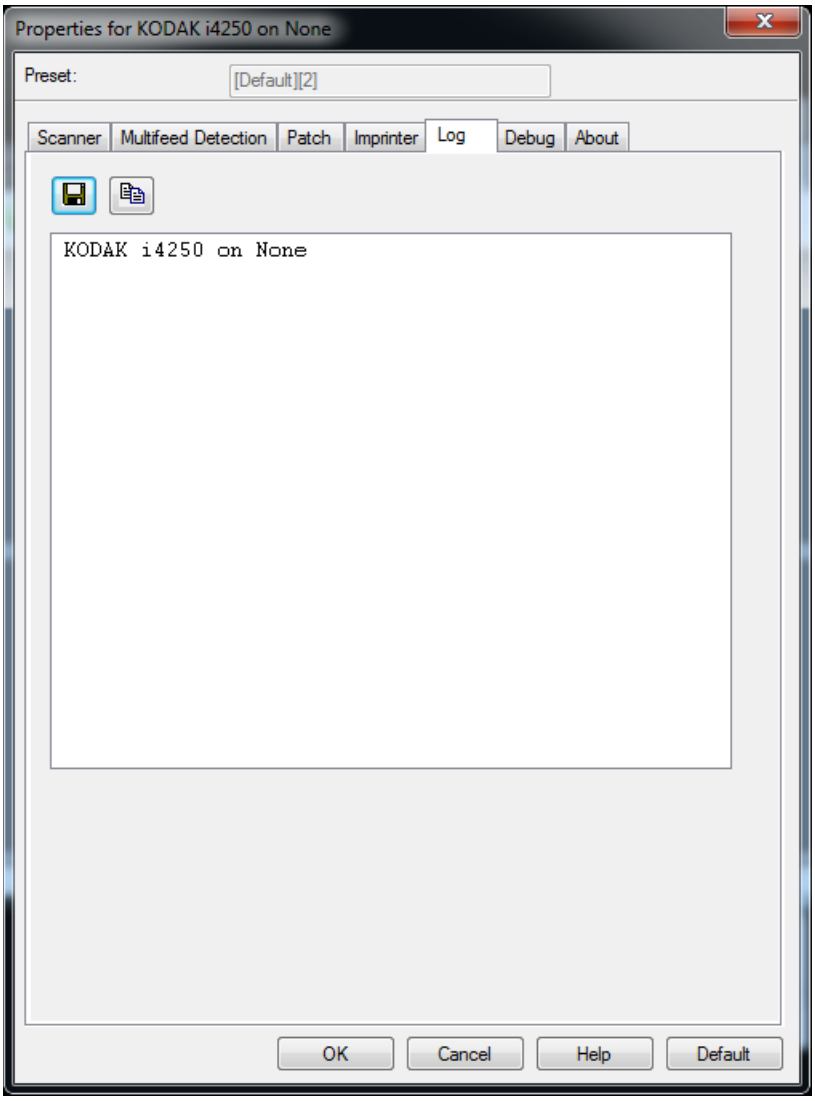


インプリンタフォーマット表

指定子	変更子	説明
%S	なし	順次カウンタの現在の値を入力します
	0	オプション。カウンタの先頭に 0 を付けて定義されたフィールド幅を埋めるようにします。 例：%0S
	1 ～ 9	オプション。カウンタの印刷に使用されるフィールド幅を定義します。変更子に 0 が使われている場合、このフィールドは先頭に 0 が付きます。0 が使われていない場合は、先頭にスペースが入ります。 例：%7S、%05S
#	該当なし	%S と同じですが、フォーマットできません
%T	1	現在の時刻を HH:mm フォーマットで入力する
	2	オプション。デフォルト設定。時刻のフォーマットを HHmmss に設定する
	3	オプション。時刻のフォーマットを HHmmss.nn に設定する
	4	オプション。時刻のフォーマットを hhmm に設定する
	5	オプション。時刻のフォーマットを hhmmss に設定する
	6	オプション。時刻のフォーマットを hhmmss.nn に設定する
	7	オプション。時刻のフォーマットを hhmm t に設定する
	8	オプション。時刻のフォーマットを hhmmss tt に設定する
	9	オプション。時刻のフォーマットを hhmmss.nn tt に設定する
%Y	1	現在の日付のフォーマットを MMDDYYYY で記入する
	2	オプション。日付のフォーマットを MMDDYY に設定する
	3	オプション。日付のフォーマットを DDMMYYYY に設定する
	4	オプション。日付のフォーマットを DDMMYY に設定する
	5	オプション。日付のフォーマットを YYYYDDMM に設定する
	6	オプション。日付のフォーマットを YYMMDD に設定する
	7	オプション。日付のフォーマットを DDD に設定する
	8	オプション。日付のフォーマットを YYYYDDD に設定する
	9	オプション。日付のフォーマットを YYDDD に設定する
	_ （下線）	オプション。日付の区切り文字をスペースに設定する。日付のフォーマット指定子の有無に関わらず使用できますが、前に置くことはできません。例：%_Y、%2_Y
	-	オプション。日付の区切り文字をダッシュに設定する
	/	オプション。日付の区切り文字をスラッシュに設定する
	.	オプション。日付の区切り文字をドットに設定する

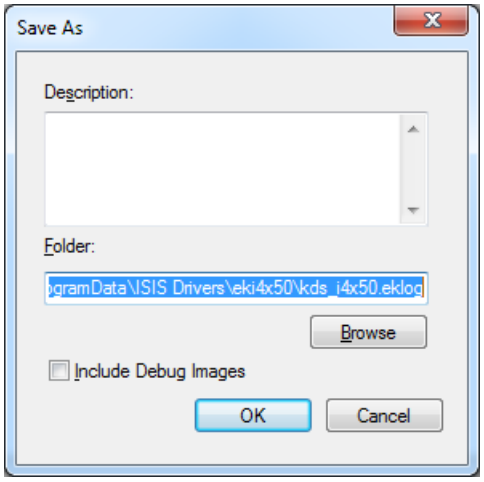
[ログ] タブ

[ログ] タブには、これまでに発生したエラーが表示されます。



オペレータログと測定値ログを表示し、情報をクリップボードにコピーしてドキュメントに貼り付けることで情報をファイルに保存したり、ログをすべて保存したりできます。

名前を付けて保存：サポート担当者が閲覧できるようにすべてのログを保存します。選択すると保存ウィンドウが表示されます。



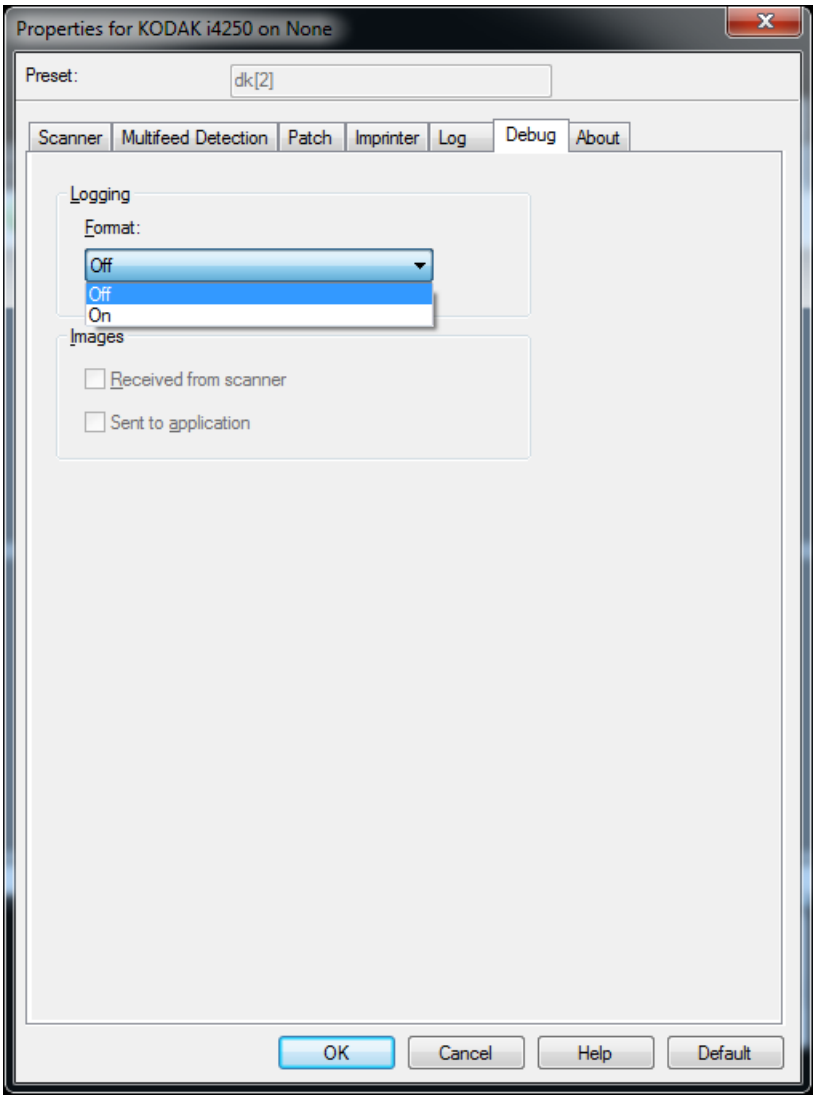
- **説明**：ログを保存する問題 / 理由の簡単な説明を入力します。
- **フォルダ**：ログの保存先です。
- **ブラウザ**：オペレーティングシステムの [フォルダを参照] ウィンドウが表示され、使用するフォルダを検索できます。
- **デバッグイメージを含む**：生成されたデバッグイメージをログと共に保存します。これは、サポート担当者から指示された場合のみオンにしてください。

OK：ファイルを eklog ファイルで保存します。

[保存] アイコンをクリックするか、または情報をクリップボードにコピーしてドキュメントに貼り付けると、スキャナーのエラーログを保存することができます。

[デバッグ] タブ

[デバッグ] タブで、スキャナーの使用中に発生する問題をサポート担当者が診断できるオプションをオンにできます。このタブは、テクニカルサポートから指示がある場合のみ使用してください。



ログ — スキャナーとスキャンアプリケーションの間で行われた通信を保存します。オプションは、**オフ**または**オン**です。

イメージ

- **スキャナーから受信** : PC がスキャナーから受信したイメージを保存します。
- **アプリケーションに送信** : スキャンアプリケーションがスキャナーから受信したイメージを保存します。

Kodak Alaris Inc.
2400 Mount Read Blvd.
Rochester, NY 14615

© 2016 Kodak Alaris Inc.
All rights reserved.
コダックの商標およびトレードドレスはイーストマンコダック社の許可を受けて使用しています。